



# GLEE CLUB

H. SADO

6月25日(金) 大阪産經會館

主催 同志社北摂クラブ  
後援 産業経済新聞社  
大阪新聞社

6月26日(土) 同志社榮光館

主催 同志社グリークラブ  
後援 産業経済新聞社  
大阪新聞社

6月27日(日) 岡崎公會堂

円遊会

H. SADO

同志社グリークラブ

# 創立五十周年記念演奏會

指揮 澁谷 昭彦

" 日下部 吉彦

ピアノ/バイブオルガン 伴奏 鴛淵 紹子



(円形写真 創設者 片桐 哲)

## 御 挨拶

初夏薫る今夕、同志社グリーンクラブ創立五拾年の記念すべき演奏会を爲し得ます事は、私達グリーンメンにとつてこの上もない喜びであります。

明治三十七年四月、現グリーンクラブ顧問教授片桐哲先生が同志社に入学され、ここにグリーンクラブの歴史は、輝かしき前途を夢みつゝ、その第一歩をしるしたのであります。

讃美歌——宗教曲、そして盡きざる合唱熱はそのレポートを披け、校祖新島襄先生の基督教主義と国際精神を背景として的人格教育を目指す同志社学園にあつて、各時代に生きたグリーンメンの合唱に對するこよなき愛情と絶ゆるまざる努力によつて、同志社グリーンクラブの歴史と伝統は、一歩一歩築かれて來たのであります。

この半世紀間、時代のもたらす変遷の荒き風は、私達学園にも、そしてグリーンクラブにも容赦なく吹きこんで來て居ります。しかし絶えざる努力は、その底流に合唱音楽への限りなき情熱をたぎらせて、伝統と時代の調和を図り、より良き伝統の確立に若き意欲を注いで來て居ります。

この半世紀の間に刻みこまれた先輩諸兄の若き情熱と苦悩の大いさを知ると共に、現在このグリーンクラブに生きる私達は、五拾周年の喜びと幸いを新たなる感覺を以て、更により良き発展と充実のために、努力致し度く思うのであります。

終りに、今夕御來場下さいました皆様方に厚く御礼申し上げますと共に、大阪に於ける演奏会のために、絶大なる御盡力を賜りました同志社北攝クラブの皆様方に心より感謝申し上げます。

昭和廿九年六月

同志社グリーンクラブ

## MESSAGE

同志社グリーンクラブの先輩現役の諸君が、本日相会して創立以來50年の健やかな歩みを感じ謝し祝賀せらるゝに際し、一言述べぶる機会を御与え下さいましたことを深謝致します。

広い意味で文化と呼ばれる現象が生じて以來のことを考えますと、50年と云う期間は問題に成らぬ程短いのでありますが、申すまでもなく期間の短い故をもつて意義無しとは申せません。その間に文化が高められた率の高下が意義の深淺を決定します。

50年以前と申せば明治37年に當り、その年は私が同志社普通学校に入学した翌年であり、グリーンクラブの創始者片桐前女子大学長が入学された年に當ります。若し現在の部員諸君が当時のまゝの音楽を、今のそれと比較して聞くことができるとしたら、恐らく曲の理解や表現力の強弱巧拙及び部員の量などの点に大変な差のあることを知るゝことと思ひます。

幸なことに、この50年はグリーンクラブにとつては絶えざる前進の50年でありました。その活動は終始一貫してキリストの教義に導かれ、演奏は何れの時代に於ても日本の宗教音楽界に於て第一級の階層に位して居りました。これ等の成果は、何れも神の嘉し給うものならず哉と察し、同志社のためにも喜びに堪えません。茲に衷心祝意を表します。これを以て私の拙たない祝詞を終りますが、終りに臨み、クラブの創始以來今日までその発展に盡力された片桐哲氏の功績をたたえ、現役部員並に今後の部員諸君が來るべき百年を期して一層向上の努力を惜しまれざらんことを祈ります。

同志社總長 大塚 節 治

グリーン・クラブが呱呱の声を挙げてより50周年を迎え、こゝに記念演奏会が催されましたことを心からお喜び申し上げます。

明治37年、数人の学生によつて讃美歌の歌声が聞こえてより半世紀を経た今日、グリーン・クラブは、我が国最古の又、最も真摯な合唱団として日本合唱界に多大の貢献をなしている事は、同志社大学の誇りとするとところであります。かくの如きグリーン・クラブの発展、進歩の歴史は又、先輩達の努力と苦悩に満ちた50年であつたのであります。

その間、大学に於ても私達の先輩は、熱誠をもつて新島先生の理想である大学設立、発展のために努力し、又あらゆる苦悩と斗つて來た半世紀でありました。

この様にグリーン・クラブは同志社大学の歴史と共に成長して來たのであります。

どうか伝統に輝やくグリーン・クラブが、同志社大学発展のために今一層の努力を重ねられ平和を愛するグリーン・クラブの歌声がもつともつと、学生の間にお親しまれ、同志社大学全体のグリーン・クラブとして、平和な緑の学園に其の歌声が満たされん事を切望致しましてお祝いの言葉と致します。

前同志社大学學長 田 畑 忍

明治維新以來僅かに36年の短い近代日本の文化運動史中西洋音楽殊に發達の遅かつた合唱音楽界で50年と云ふ半世紀に亘る歴史を持つと云ふ事は洵に得難い記録と云つてよい。

我がグリーンクラブは勿論全国を対象にして創立された遠大な企画などでは全然なく、僅か数百人位しか居なかつた当時の同志社学園の学生々活を幾分でも豊かなもの、潤ひのあるものにしたと云ふ若き学徒らしい細やかな希望から生れた小団体なのであつた。それが創業時代の一般からの無理解や圧迫の中に幾多の苦難を嘗めつゝも次から次へとよくも堅実な發達を遂げて今日の盛況を見るに到つた事は只々驚異であると共に泌々とした代々のグリーンメン達の弛まざる努力と伝統への熱意とに對して深甚なる感謝と敬意とを表さずには居られない。

学生音楽界の草分として亦我國に於けるグリーンクラブの名称の名づけ元として、今日茲に50周年を記念するに當り、長い間グリーンクラブに對して賜はつた各方面からの御好意と御支援とに對して衷心より感謝を表すると共に、明日への努力と精進とを誓つて更に來るべき半世紀への雄々しき歩を始めたいと祈つて止まぬものである。

グリーンクラブ顧問 片 桐 哲

50年前の同志社は男女の中学部が中心で、それに、僅かに専門学校が附いていたに過ぎない。それでも神学校だけは天下公認で、そこにグリーンクラブが生れ今日まで続いたことはその地位を語るものである。50年前と云へば最初の円盤レコードが英米で発売された年である。我國では当時洋樂は教会で聞くものであつた。従つてクラブは教会音楽に関心を持つものの練習場でもあつた。

又大学初期には、音楽をやるような器用な者は、多方面に活躍した。例へば平田市、原忠雄、三宅讓、片桐弘の諸兄や小生等は野球選手も兼ねていた。其後の同志社学制の進展は驚くべきもので、クラブ員の所屬も移動し、学内クラブ活動も分業となり専門化された。

しかし今日世界的に樂界に於ける教会音楽の領分は劣へてはいない。我國のそれが問題なのだ。小さくは同志社内そのそれはどうなのだろう。クラブ員の活動の広さが課題となる。外部の流儀に従うか、創立時の使命をつらぬくかが後半世紀の指針となるだろう。

グリーンクラブ顧問 湯 浅 永 年

It gives us great pleasure to extend to the Glee Club of Doshisha University the greetings of the Amherst College Glee Club.

As the oldest organization at Amherst we feel that we are continuing a proud tradition of singing by the men of our college.

It is a source of particular gratification for us to know that some of the melodies so well beloved by Amherst men are sung by your students at Doshisha.

It is a real satisfaction to realize anew the unique power that music has to transcend boundaries and unite all men of goodwill in our troubled times

Charles W. Ludineton, Director  
Alan F. Sandy '54, President

同志社グリーン・クラブが50周年を迎えた事について心からの御祝を申しあげます。まだ合唱音楽というものが全然世に知られず認められなかつた明治中期から、すべての困難に打ち克つて今日の堂々たる姿を築き上げたのは、その間十幾代か変つた部員諸氏の心に一致して一貫した熱誠のたまもので、全くなみなみならぬ功業であると存じます。同志社グリーン・クラブが今日の力をさらに加えてますます大きな未来に向つて進まれるよう期待いたします。

### 堀内敬三

同志社グリーン・クラブの50周年記念演奏会が開かれると云う。半世紀の歩みに触れた人達が日本の合唱文化にどれ位盡されたか計り知れないものがある。

私が初めて同志社グリーンの人達に接したのもつい此間だと思ふのに早30余年になる。独逸遊学を卒へ、帰途カーネギーホールで絃楽シンフォニー・オーケストラを指導して自作を演奏し、火の様な志を抱いて帰国して間もなく、東京でシンフォニー・オーケストラを組織しヴァグナーのタンホイザーの一幕をやつた時である。管絃楽団も歌劇の実演も日本では初めてなので大変な事だつた。東京を打ちあげて大阪公演にはコーラスを補充するのに同志社グリーの四重唱も参加してもらつた。合唱指揮近衛秀麿、舞台監督土方与志のスタッフ。僧衣を着、ドーランを塗つた若いグリーンメン湯浅・山口君など大騒ぎの大はしやぎであつた。

グリーン・クラブが今後も日本音楽文化の中心と前進に寄与される事を祈つてやまない。

### 山田耕筈

同志社のグリーン・クラブは、関西学院のグリーン・クラブとともに、日本の学生合唱のさきがけを承つたものである。それだけに今日でも西日本のみならず、全日本の学生男声合唱では、他の追従をゆるさない歩みをつづけてゐる。

第一に、そのハーモニーの美しさは、音を概念的に出してゐない証拠で、立体的な重ね方に生きた血がかよつてゐるためである。これは譜の読み方を習つただけでは会得できない芸当で、グリーン・クラブそれ自体の伝統と、学園内にみなぎる音楽的雰囲気、然らしめるところに相違ない。

つぎに同志社グリーン・クラブが採りあける曲目のなかに、歴史的なポリフォニック音楽が見えることに、わたくしは心を惹かれる。これは他の日本の学生合唱にはみられない特殊な現象で、これだけでも、いかにこの若々しい歌の群れが、同志社の今、一の伝統たる知性を兼ねそなへてゐることが、つよく感じとれる。

いろいろな点で優秀で、そして特異な学生合唱団たる同志社グリーン・クラブの存在の意義をここに改めて讃へたいと思ふのである。

全日本合唱連盟常任理事 津川主一

創立50年にもなる合唱団は、大学はむろんのこと、一般の合唱団でも、おそらく他にないだろうと思う。

歴史が古いということと、技術がすぐれているということとは、必ずしも一致しないかも知れない。しかし、歴史の古さは、もしその長い年月のあいだに、たゆみない歩みがつづけられていたとしたら、伝統というものをいつの間にか形成しているにちがいない。

同志社グリーン・クラブは、ほくの知つてゐる範囲（およそ20年強）でいつでも、ゆるぎのない、独特の伝統をつくり上げてゐると断言してよい。こうなると、時に波の高低があつても、よい意味での“名門”であることを失わない。

音楽には、絶えざる探求が必要である。同志社グリーン・クラブが、50周年を機として、あらゆる音楽の世界に踏みこまれることをいのつてやまない。

清水脩

創立50周年記念演奏会を心からお祝ひ申上げます。合唱団運営のあらゆる困難を克服されて保持された50年の伝統は実に尊いものです。グリーン・クラブの先輩諸氏が吾国合唱界に残された実績は大きく今日の日本合唱界隆盛をもたらした大きな力となられた事は感謝の外ありません。遠隔の地故郷参会出来ぬのが残念です。御盛會を祈つて居ります。名誉ある伝統を活かされまして今後共に吾国合唱界の指針となられん事をお願ひ申します。

全日本合唱連盟常任理事 秋山日出夫

「同志社グリーン」の伝統あるハーモニーの響は、大樹に掩われた旧い礼拝堂の高い窓ガラスを通して、洩れ聴えて來るような感じがする。綿々と続いているドーシヤ・イーヴのなつかしい思い出と共に、関西の合唱はリードされて來たと云つてもよからう。永く恵まれた環境に温かく育てられたグリーン・クラブの合唱には、昔ながらの気品が深たれて居た。そうした独自の気風の中にあつて、唱われて來たグリーの音楽が、ここ数年の間に著しい転換を見せ始めたように私には感じられる。例えて云えば、内なる扉が開かれて、堂外に出で立つたように、その歌声は敏びと感激にさえ溢れ、純真と謙讓の思いをさえ聴く者に抱かされる。今日茲に50周年の記念演奏会を開催されることに、限りない御御慶の意を表すと共に、半世紀に亘り数多い先輩達と相協力して我が関西合唱界に貢献せられた事に対し最大の敬意と感謝とを呈する次第である。

関西合唱連盟委員長 長井齊

同志社グリーン・クラブが50年のアニヴァーサリーを迎えたときに、その半分ほどの年の私がそれもやつと去年になつておつきあいを始めた私がお祝ひの言葉を申しあげるのは、おこがましく又場違いのように感じられます。けれども、現在の同志社グリーン・クラブのすぐれた合唱——それは日本で最高のものの一つでしょう——を讃嘆しながら聴くときに、又、どの団体にも見られぬ美しいメンタルハーモニーを知るときに、合唱のよさの信者である私はその輝く50年の歴史の間にどれほど多くの本当の音楽愛好者、立派な社会人を生み出したか容易に想像出来るのです。50年の歴史の貴さは、記念音楽会の盛大さにもまして、眼に見えぬ人間の営みの中に、多くの宝をひそめていることを思うとき、50周年のお祝ひは、私達音楽を愛する者みんなの喜びと云はずにはいられません。

藤原歌劇團副指揮者 福永陽一郎

本日、同志社大学グリーン・クラブが、創立50周年の記念演奏会を持たれる事は、同じ合唱音楽の道を行く私達の、至上の喜びとする所であります。貴グリーン・クラブの歩まれた50年は、常に合唱界のリーダーとして、又常に変らざる友情を示され、その歴史の一頁一頁は、とりもなおさず我国合唱音楽の発展の歴史であります。この様な歴史と、伝統を持つ貴グリーン・クラブと、相携えて音楽芸術に対する絶えざる研究を続けて行ける事は、私達の秘かに誇りとする所であります。かゝる輝かしい歴史と伝統に基づいて、今後の一層の御発展を御祈り致します。

慶應義塾ワグネルソサイエティー男聲合唱団

今こゝに同志社大学創立50周年記念の祝典に当り、グリーン・クラブの皆様私達には心からお祝ひを申し上げます。合唱の楽しさは、自ら唱う喜びと共に美しい調和に酔うところにあります。合唱程、私達の心を柔らけ結びつけてくれるものは他にないでありましょう。明治の中頃より今日に至る貴方々の永い伝統は、そのまゝ心の調和の歴史として榮光に輝いてあります。今日の貴方々の歌声は、遙か東京の私達の耳にまで未來の發展を約束するものとして響いて参ります。私達も心からその歌声に和し和して共に合唱の喜びにひたり、貴方々と一緒にこの日を壽がせて頂きます。

早稲田大学グリーンクラブ

同志社大学グリーン・クラブ、創立50周年と云うことは、我々立教大学グリーン・クラブ全員にとつても、大変喜ばしいことであります。音楽を通して、学生々活をより充実せしめんとする活躍が、過去半世紀に遂行された業績に対し、尊敬の念をこめて、祝意を表はす次第であり、毎年交歓會を通して接する同志社大学グリーン・クラブが、今後増々發展成さる事を、我々一同期待して居ります。

立教大学グリーンクラブ

半世紀にも亘る輝かしい歴史を、常に絶えることのない熱意と努力とによつて今日この様に築きあげられた、先輩現役の諸氏に心からなるおよろこびを申し上げます。真実から伝統に生きることの幸福感和緊迫感——そういつたものが、互いに音の世界に住む者としての共通の感慨であり、旧くも亦常に新しい前進の動機でもあろうかと存じます。50年の合唱の歴史がそのまゝにハーモニーの歴史であつたということをお考えあわせ、たとえきびしくはあつたとしても何か心暖まるものを諸氏がその回顧の内にきつと感じておられるに違いないと思ひます。調和につどい伝統に生きゆく意味に於いて本日の音楽會は誠に意義深いものであると存じます。数々の榮光ある可能性を背負つて起つ同志社グリーン・クラブの前途に幸あらんことを願いつつ、更には私達共々合唱界に於ける共通使命の認識を新たにしつゝ50周年記念音楽會のおよろこびの御挨拶にかえさせていたゞきます。

関西学院グリーンクラブ

# PROGRAM

## Hail Our Glee club

..... arr. by Doshisha Glee Club

## Popular Songs

UNTIL THE DAWN

..... J. A. Parks

SHENANDOAH

..... arr. by Y. Fukunaga

B. A. BA.

..... T. Onaka

DIE BEREDSAMKEIT

..... Joseph Haydn

## Quartet (Silver-gate)

WELL BEHOLD

..... Golden Gate

LIVING HUMBLE

..... "

I HAD A DREAM

..... Barber Shop Melody

NOW IS THE HOUR

..... "

## Sacred Music

PASTORAL PRAYER

..... Harry A. Sykes

WE BOW, O ALMIGHTY

..... Joseph Barnby

FRIEND AFTER FRIEND DEPARTS

..... Albert J. Holden

LORD, THOU HAST BEEN OUR DWELLING-PLACE

..... "

——— Intermission ———

## Negro Spirituals

WADE IN DE WATER

HUMBLE

LET US BREAK BREAD TOGETHER

KEEP IN THE MIDDLE OF THE ROAD

## Clover Club

YŪYAKE KOYAKE

..... arr. by Y. Kusakave

DE WIND BLOW OVER MY SHOULDER

..... Negro Spiritual

GOOD BYE, I'M GOING HOME

..... "

U—BOY

..... Serbian Battle Song

## Popular Songs

GOING HOME

..... Anton Dvorak

DIE BEIDEN SÄRGE

..... Friedrich Hegar

## Grand Chorus

REQUIEM

..... Peter Cornelius

I'M BUT A STRANGER HERE

..... W. H. Pontius

PSALM 98

..... arr. by H. Hirata

あしたまで—— 夜空に月がかかり、星がまたたいている頃、安らかな夢路をたどる君に別れをつけんとする心持を歌つたもの。静かな中にも男声合唱のダイナミックな味を盛り上げている。

Shenandoah —— バリトンのソロによつて歌い出される素朴な美しい曲。ミズリーの舟人達はシェナンドー溪の光景を思い浮かべ、なつかしさのあまり恍惚となり、歌と共に思い出の国へと導かれて行く。代表的舟唄の一つ。

B. A. BA. —— B と A で BA, B と E で BE, B と I で BI, B と O で BO, B と U で BU. そこで BA BE BI BO BU. 全く何の意味もない歌詞が軽やかなメロディーとリズムで歌い出される。

おしやべり —— 「水は人をだまらせてしまう。魚を見てごらん、魚はちつともおしやべりをしない。だが、ラインの酒だとすく我々はおしやべりになって、ドンチャンさわぎをはじめ。」と云う大意のユーモラスな曲。最後に「しかし水ではネエ……」とだまってしまうのが面白い。

Silver Gate Quartet —— この Quartet は、昨年夏発売し、更にこの4月再編成されたグリークラブ専属の Quartet である。主として Negro Spirituals を練習しているが、此度は、それに Barber Shop より二曲を加え四曲を演奏する。

1st Ten, 中路明, 2nd Ten 中島完治, 1st Bass 野村忠, 2nd Bass 小田泰弘。

Pastoral prayer —— 主よ、我に語り給え。我は汝が語れるうちに答えん。汝が求め給う如く、けがれたる我をも語らしめ給え……。

We bow, O Almighty —— 全能の父なる主よ、我等は汝が前にぬかぎき汝を讃美せん。汝が与え給うよき日を謝し、我等の行手を導き給わんことを祈る。主よ、汝は永遠に我が強き助け、我が強き糧なり。

Friend after friend departs —— 友は相次いで去つて行く。この定めなき世のみが我々の唯一の安らぎの地であらうか。否、天上には別れを知らぬ永遠の愛と祝福の国がある。…… 死者の冥福を祈る regu'em の一つ。

Lord, Thou hast been our dwelling-place —— 主よ、汝は住古より世々我らの居所にてましませり。山いまだ生りいでず、汝いまだ地と世界とをつくり給わざりしとき、とこしえよりとこしえまで汝は神なり。…… (詩篇第九十篇)

Keep in the middle of the Road —— 私は天使達が大声で呼ぶ声を聞く。唯真直ぐに、わき目もふらずその方に向つて進んで行こう。この世はあまりにも罪に満ち満ちている。唯真直ぐに、道草をくつたりしないで、幸福な天国を目ざして行こう。

しいたげられた黒人達が、唯末世のみに幸福があると信じて歌い上げたもの。

Let us break bread together —— パンをさき、ブドウ酒を飲み、共に手を取り合つて朝日に向つてぬかずく我をあわれみ給え。聖餐式に臨む黒人達の清純な祈り。

Humble —— 神の御言に従わなかつたヨナの物語 (旧約聖書ヨナ書) から謙遜になることをうながしている。バリトンのソロによる軽快な曲。

Wade in de water —— 「願わくば泥の中より我を助け、洗まざらしめ給え。」と神に祈る。ニグロ独特のメロディーとシンコペーションのリズム。その重厚なハーモニーは神祕を思わせる。

Going Home —— チェツコスロバキア最大の国民音楽家ドヴォルザークが、ニューヨークの国立音楽院長の時に作った交響曲第五番「新世界」の第二楽章ラルゴのメロディーにフィツシャーが歌詞をつけたもの。心のふるさとを求めて家路を急ぐ哀愁を歌っている。

剣と堅琴 —— 剣を手にした武勇とどろく王と、王に召しかかえられ、堅琴をいだいたまひ葬られている歌人の棺とが安置されている。突然、王の在りし日の光景が…… 激しい戦い、王の兵は強く、敵のトリデは打ちくだかれ、勝利の声は天地にこだまする。戦い終つて王の剣は四方を配し、歌人は堅琴をかなでて平和を讃える。

Requiem —— 「死せる魂に永遠の憩と光とを与え給え。」死者の霊を慰め、更にその霊が神のみもとに招かれて安きを得る様にとの祈りをこめた曲。

うき世の旅路 —— この世に於ては幾多の苦しみ悩みに遭遇するけれども、召されて行く天上こそ我々のふるさとである。」

新らしき歌をエホバに向いて唱え —— (詩篇第九十八篇) 本グリークラブ第三代指揮者平田甫氏の編曲になるもので、以来ずっと歌い続けられている曲。

本科 (大學受験科) —— 第一部 (晝間) ・ 第二部 (夜間) …… 日曜・祭日を除く全日

附属 トアイト・スクール (科目… 英・数・国)

Senior A class (高校二年生) ・ Senior B class (高校一年生) …… 火・木・土

Junior A class (中学三年生) ・ Junior B class (中学二年生) ・ Junior C class (中学一年生) 月・水・金 (各 自午後五時 至 七時)

# 大 學 予 備 校

夏季受験講習會

7月下旬—8月下旬

大阪市天下茶屋柳通 TEL 大阪66局 4778

(但南海天下茶屋駅西出口すぐ)

[案内書 郵券 30]

## 夏季講習會

[晝間] 7月23日—8月22日 (一月間)

[夜間] 8月1日—8月21日 (三週間)

大阪府  
公 認

# 夕 陽 丘 予 備 校

大阪市天王寺区夕陽丘町八 TEL 天王寺 (77) 4803

一部員紹介



幹事長: 山県達雄



渉外 河上文久



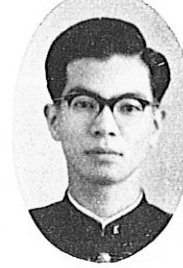
内政 本多省一



外政 小田泰弘



先輩 橋守



会計 門田耕一

第一テノール

中島完治	杉山和夫	平野稔	今藤勇	中路明	佐々木正義	佐藤尚武	下岡祥浩	広瀬清彦	三上貞夫	加藤藤格	川島順三	砂本順三	山崎拓	大橋豊彦	西田晃	福田義二	大谷至安	山梨典彦
------	------	-----	-----	-----	-------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	-----	------	------	------



第二テノール

服部武三	堀野哲	菅野信弘	加納健義	円井文夫	大森寛	戸田勇	長谷部重一郎	日野良保	舟木一昭	飯山榮	河原林昭	木村一英	森田雄二	小川光彦	大野久雄	大野久雄	小池基信	永田秀夫	堀井一仁	楠原通弘
------	-----	------	------	------	-----	-----	--------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

バリトン  
 福島圭司  
 朝倉盛之  
 原倉忠和  
 野村明  
 野村秀忠  
 佐渡渡秀  
 渡谷昭彦  
 橋立昌夫  
 足立昌夫  
 大島榮夫  
 小野寺爾  
 山元弘  
 原畔宏  
 中畔絆博  
 小笠原雄二  
 岡田義昭  
 小崎源太郎  
 門田耕一  
 森田泰一  
 伊藤昌武  
 本藤昌  
 横見全  
 今村伸二



バス  
 本多省一  
 河上久  
 山県雄  
 森盛  
 越智常雄  
 小田泰弘  
 佐々木幹郎  
 渡辺謙之助  
 寒河江正  
 榊井丈治  
 山崎途夫  
 湯浦章  
 原田勉  
 広瀬洋  
 香川利治  
 小峰一  
 座古嘉一郎  
 竹中義正  
 辻中義彦  
 大橋寛治  
 二木敏明



庶務 下岡祥浩



1st T パートリーダー 中島完治



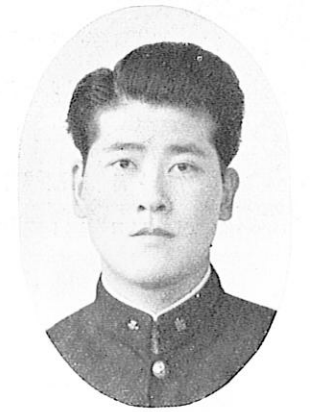
2nd T パートリーダー 戸田寛



Bariton パートリーダー 野村忠



Bass パートリーダー 山県達雄



指揮者 波谷昭彦

SPORTS  
**KYOYA**  
 KYOTO  
 スポーツ用品と服装  
**京屋運動具店**  
 京都市中京区寺町通三条上ル  
 TEL ③ 3337

沸したコーヒは  
 コーヒにあらず  
 (ダイジェスト)

珈琲店  
**六 曜 社**  
 河原町三条下ル  
 電 ② 3820

Kyoto music Center  
 皆様の  
**十字屋楽器店**  
 TEL ② 575,5466

## 五十年史概略

### グリークラブの萌芽

- 明治36年 当時の同志社学生は相野蛮風を誇り、音楽等の関係人に対して圧迫を加えたが、渡辺守成氏は宗教音楽による学生の人格陶冶を高調し、讃美歌の合唱練習を始める。
- 37年4月 現顧問教授片桐哲先生の同志社入学により合唱団として発足する。
- 39年1月 東北地方飢饉救済音楽会がチャペルにて行われ、渡辺氏指揮の同志社学生三十余名が「復活の歌」を大合唱し非常なる絶賛を博す。これが京都に於ける最初の有料洋楽音楽会である。
- 41年 海老沢亮氏、堀内清氏がダヴィデ・クワイヤーを組織し、市内の教会に進出し会員を募集して讃美歌練習会を度々催す。時を同じくして同志社東寮長の片桐哲氏が寮生の蛮勇なるを沈和さすべく讃美歌の合唱練習を始め、両者共にグリークラブの前身となる。

### グリークラブ史

- 明治44年9月 片桐哲氏従来の合唱団を改革統一し、整備せる合唱団に再組織化し、「同志社大学グリークラブ」と称するに至る。そして讃美歌524番「花よりも愛でにし」がグリークラブの産声である。
- 大正2年 メンバーの一部の人達に宗教曲本意のグリークラブ趣旨に不満を覚えグリーより独立してプリムローズ・クラブを組織す。
- 4年5月 グリークラブは名古屋へ最初の演奏旅行を行う。(以下小演奏旅行を省略す)
- 〃 9月 詩篇98篇「新しき歌」を練習開始す。
- 5年11月 第1回の同志社イヴがチャペルにて開催さる。
- 6年7月 第1回満洲、朝鮮大演奏旅行(26日間、13都市にて演奏会)
- 8年7月 第2回満洲、朝鮮大演奏旅行(40日間、24都市にて演奏会)
- 10年7月 北陸、東北、北海道演奏旅行(18都市にて演奏会開催)
- 11年7月 勃海、黄海一周大演奏旅行(60日間、中国、九州、朝鮮、満洲、支那の24都市にて44回の演奏会を開催)

### グリークラブ歴代指揮者氏名

1. 片桐 哲 氏  
(明治44年9月—大正2年3月)
2. 浜田 格 氏  
(大正2年4月—3年12月)
3. 平田 甫 氏  
(大正4年1月—7年3月)
4. 水谷 央 氏  
(大正7年4月—7年7月)
5. 蘭川 四郎 氏  
(大正7年9月—7年12月)
6. 湯浅 永年 氏  
(大正8年1月—9年12月)
7. 山口 隆俊 氏  
(大正10年1月—11年12月)

- 12年7月 台湾演奏旅行(長崎、福岡、台北、淡水、嘉義、台中、台南、高雄)
- 14年1月 九州演奏旅行。
- 〃 4月 東北、東海道演奏旅行。
- 15年7月 第4回、満洲、朝鮮大演奏旅行。
- 昭和3年4月 上海演奏旅行。
- 7月 第5回満洲、朝鮮大演奏旅行(24日間、10都市にて演奏会)
- 4年3月 沖繩、演奏旅行(21日間)
- 5年7月 第2回台湾演奏旅行(17日間、9都市にて演奏会)
- 11月 関西合唱コンクールにプリムローズクラブ優勝す。
- 6年7月 第2回北陸、北海道演奏旅行(13日間、6都市にて演奏会)
- 9月 第1回同志社、立教グリークラブ交歓演奏会を東京にて開催す。
- 7年5月 第2回同志社、立教グリークラブ交歓演奏会。於栄光館。以後数回に亘り開催される。
- 7月 中国、四国演奏旅行。
- 9年10月 同志社グリークラブ創立30周年記念演奏会。於栄光館。
- 12年7月 四国演奏旅行。
- 13年7月 中国演奏旅行。
- 10月 同志社グリークラブ創立35周年記念演奏会。於栄光館。
- 16年5月 グリークラブとプリムローズ・クラブは同志社大学学友会の解散と共に解消し、大学修練団修文部音楽班声楽部とし、新たに同志社大学男声合唱団として成立す。
- 17年8月 九州演奏旅行。
- 19年5月 大東亜戦争は益々熾烈を極め、本土決戦の段階に入り、メンバーの総ては軍隊に工場へと動員され、合唱団の活動は中絶のやむなきに至る。
- 20年10月 野沢益次氏等の努力によりメンバー13名をもつて合唱団再開さる。
- 21年8月 西宮球場に於ける東京交響楽団演奏会に賛助出演す。
- 11月 第1回関西合唱コンクールに総合第2位を獲得す。

8. 三輪 雅夫 氏  
(大正12年1月—13年4月)
9. 森本 芳雄 氏  
(大正13年5月—15年11月)
10. 山田 基男 氏  
(大正15年12月—昭和5年11月)
11. 岸田 治夫 氏  
(昭和5年12月—7年11月)
12. 今西 善治郎 氏  
(昭和7年12月—9年1月)
13. 大田 三郎 氏  
(昭和9年1月—13年3月)
14. 千葉 昌良 氏  
(昭和13年4月—14年3月)
15. 大槻 彰 氏  
(昭和14年4月—16年3月)
16. 岸田 耕一 氏  
(昭和16年4月—16年12月)
17. 前 窪 一雄 氏  
(昭和16年12月—18年8月)
18. 内山 正作 氏  
(昭和18年9月—18年11月)
19. 沖口 優 氏  
(昭和20年10月—21年4月)
20. 内山 正作 氏  
(昭和21年5月—21年11月)

清 酒

キンピョー

京都 秋山 醸



パン・洋菓子・サンドイッチルーム

White Bakery

ホワイトベーカーリー

京河原町六角 TEL. 本. 1052

海に、山に、……………

ホワイト・ベーカーリーの  
サンドウイッチが  
貴女の御供を致します



12月 「同志社グリーンクラブ」と改名さる。

22年11月 第2回関西合唱コンクールに総合第1位を得優勝す。

〃 立教大学グリーンクラブ定期演奏会に出演。於東京毎日ホール。

23年5月 復活第1回同志社、立教大学グリーンクラブ交歓演奏会を大阪、京都にて開催。以後、東京と京都一年交代に5回の交歓演奏会を開催す。

7月 北陸演奏旅行。

11月 第3回関西合唱コンクール学生の部に優勝す。

〃 第1回全日本合唱コンクールに出場学生の部第2位。於日比谷公会堂。

24年9月 同志社グリーンクラブ創立45周年記念発表会。於栄光館。

11月 第4回関西合唱コンクール学生の部第2位。

25年11月 第5回関西合唱コンクール学生の部に優勝す。

〃 第3回全日本合唱コンクールに優勝す。於日比谷公会堂。

26年8月 東北、北海道演奏旅行(16日間、8都市にて19回の演奏会開催)

10月 慶応ワグネル、同志社グリーンクラブ交歓演奏会。於大阪毎日会館。

11月 第6回関西合唱コンクール学生の部第3位。

27年5月 慶応ラリー音楽会に賛助出演。於宝塚大劇場。

7月 中国、九州、四国演奏旅行(18日間、14都市にて24回の演奏会開催)

9月 第1回東西四大学(早慶同関)合唱音楽会。於栄光館、産経会館。

11月 第7回関西合唱コンクールに学生の部第2位。

28年5月 マリアン・アンダスン 歓迎レセプションに出演。

6月 同志社グリーンクラブ創立49周年定期演奏会。於栄光館。

7月 東北、北海道演奏旅行。(23日間、14都市にて29回の演奏会開催)

9月 第2回東西四大学合唱音楽会。於東京青年会館。

11月 第8回関西合唱コンクール学生の部第2位。

29年3月 中国、九州演奏旅行(19日間、17都市にて23回の演奏会開催)

以上

21. 織田 幹雄氏

(昭和21年12月— 24年11月)

22. 日下部 吉彦氏

(昭和24年12月— 26年11月)

23. 間瀬 孝志氏

(昭和26年12月— 27年3月)

24. 寺本 和市氏

(昭和27年4月— 28年11月)

25. 渋谷 昭彦氏

(昭和28年12月— )

## 絢爛豪華200名の大合唱 第三回 東西四大学合唱音楽會

慶応ワグネルソサエティー  
同志社グリーンクラブ

早稲田大学グリーンクラブ  
関西学院グリーンクラブ

9月 18日(土) 6.30PM  
19日(日) 2.00PM・6.00PM

同志社栄光館  
大阪産経會館



# お買物は 阪急へ

大阪・うめだ



いつもあなたに  
若さと健康をあたえる

ポンジューズ1本の栄養価

ビタミンA……卵3個分  
ビタミンB……牛乳1本分  
ビタミンC……トマト2個分

タカラ  
ポンジューズ

伊予みかんの天然果汁



寶酒造株式會社